

大学間連携の方策と可能性

日 時：2019年3月15日（金）13:30～17:00（受付：13:00～）
場 所：アルカディア市ヶ谷 5F「大雪の間」

昨年11月に中央教育審議会は「2040年に向けた高等教育のグランドデザイン（答申）」をまとめた。この中で、大学等の連携・統合の促進の方策が提起され、国立大学の一法人複数大学制の導入、私立大学の学部単位の事業譲渡や経営指導強化指標による撤退等の指導強化及び国公立の枠組みを超えた連携の仕組みが提示され、地域連携プラットフォーム（仮称）の構築が進められようとしている。この背景には、大学全体の持続的な発展の可能性とともに地域ごとの国公立大学の存在意義が問われていることがある。

については、本研究会では「大学間連携の方策と可能性」をテーマに、日本の私立大学の統廃合や廃止等の事例を整理するとともに、海外における大学の連携統合・構造改革等の動向について比較検討を行うことにより、今後の私立大学の連携統合の政策の方向性と個別の大学の存続と発展に向けた課題を考察したい。

1. 「日本の私立大学の統廃合と廃止等の問題点」

西井泰彦・坂下景子（私学高等教育研究所）

日本の私立大学において行われた連携・統合の事例を検証し、今後の私立大学の運営における課題と展望を提示する。

2. 「韓国の大学構造調整と私立大学の運命：倒産か、連携か」

尹敬勳氏（流通経済大学准教授）

韓国の私立大学間の連携に関する議論は、学齢人口減少による大学間の競争が激化する中、本格的に進んでいる。特に、政府の構造調整政策の中、私立大学は連携による生き残り策を模索しなければならない状況に直面している。しかし、現状は、連携統合の話は破談になることがほとんどである。そのため、私立大学の退出が拡大する中、大学間の統合と連携による生き残り策を検討する。

3. 「アメリカにおける大学の統合—事例の検証から—」

森利枝氏（大学改革支援・学位授与機構 教授／本研究所研究員）

アメリカにおいても、大学の統合にはその成否の要件を分析できるほどの事例の蓄積はない。ここでは、機関の統合について細部に目を向けて、統合の前後には何が起きうるのか、事例の検討を試みる。

休 憩

4. パネル・ディスカッション

「私立大学の連携統合の政策の方向性と個別の大学の存続と発展に向けた課題」

パネリスト：小出 秀文（日本私立大学協会 常務理事・事務局長）

西井 泰彦（私学高等教育研究所 主幹）

菊池 裕明（日本私立学校振興・共済事業団 私学経営情報センター センター長）

モデレーター：森 利枝氏（大学改革支援・学位授与機構 教授／本研究所研究員）

お申し込みは…

日本私立大学協会 web サイト (<https://www.shidaikyo.or.jp/>) “協会トピックス” の本件から「申込フォーム」に記入の上、3月8日（金）までにお申し込み願います。

*会場の都合により先着120名、1機関3名迄とさせていただきます。参加料は無料です。

*ご登録頂いた情報は、本研究所の事業運営の活動に必要な範囲に限り利用致します。